

第IV章 合意形成や参画の促進に向けた取組み

第Ⅳ章 合意形成や参画の促進に向けた取組み

1. VRを活用した普天間飛行場跡地利用における将来イメージの制作

(1) VR（バーチャルリアリティ）の作成

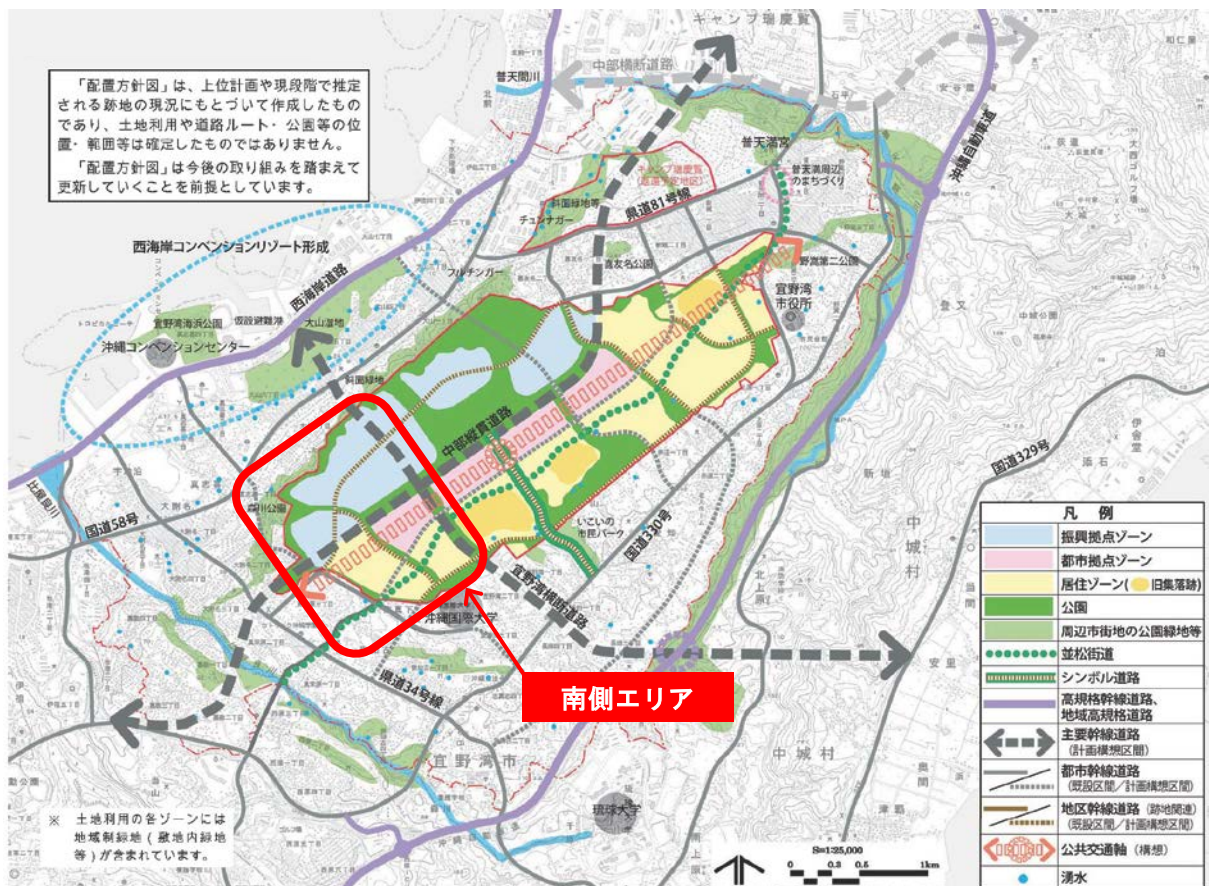
1) 平成28年度の詳細VR制作の考え方

① VRの作成の考え方

平成28年度のVR制作範囲は南側エリアを中心とした全体コンセプト、基盤整備、都市拠点ゾーン、振興拠点ゾーン、居住ゾーン等の土地利用を対象に、それぞれの項目について整備イメージの検討を行った結果に基づき、南側エリアのVR作成に向けた考え方について、具体的に整理した。

また、制作にあたる留意点は、以下のとおりである。

- 県民、市民や地権者に土地の活用や生活のイメージが伝わるよう作成
 - 県民、市民に向けた住宅のイメージや文化財・自然環境の保全・活用イメージが伝わるように作成
 - 事業のリアリティがあるよう、ある程度夢と現実のバランスに配慮しながら作成
- ※なお、作成上、広域道路や土地利用計画をある程度想定するが、現時点でのアウトプットとしては、部分イメージとして限定的に活用

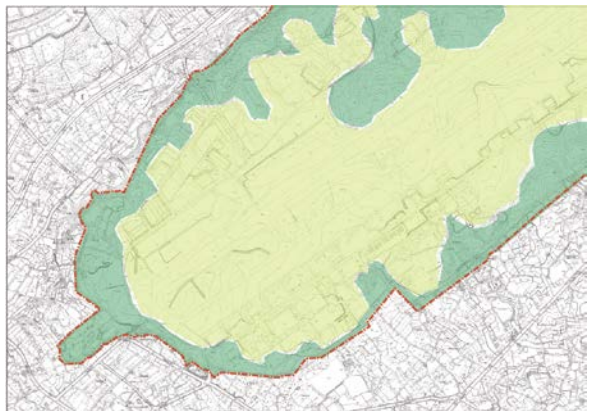


図Ⅳ-1 平成28年度VR制作範囲

②エリアにおけるまちづくりの考え方

i) 現況地形、植生の保全

- ・地区外周部における海岸段丘、平地林等の地形及び樹林地等の現況植生を原則として保全
- ・森川公園、佐真下公園との連担部については、特に樹林地の連続性やボリュームに配慮
- ・滑走路及び施設敷地等で利用されている平坦部を活用し、周辺環境や立地に応じて土地利用

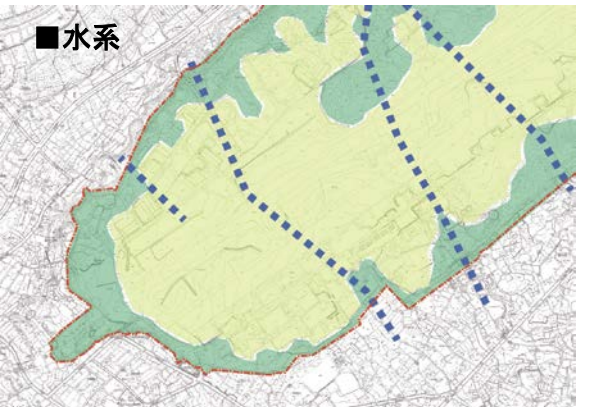


ii) 環境づくりに資する保全・再生要素の反映

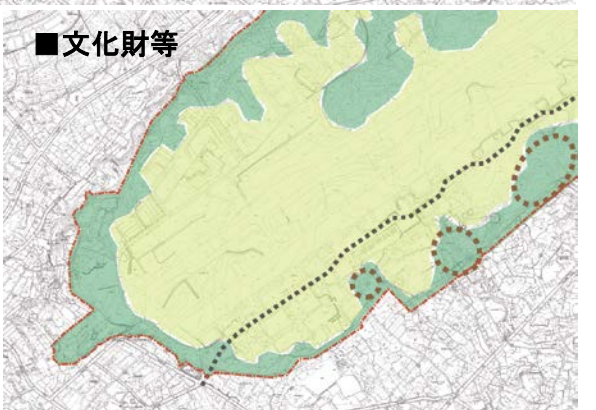
- ・鍾乳洞等、地下構造の保全や大山エリアの湧水の流量確保となる水源の涵養を行うため、地下水脈が想定される位置を中心に緑地帯「水路緑道」を整備
- ・上記により、緑が存しない現滑走路上に南北の樹林地を結節する緑のネットワークを形成するほか、沿道には緑地担保型の土地利用を配置し、地域全体としての緑量を確保
- ・宜野湾古集落の宜野湾メヌカー古湧泉等、文化財の残存が想定されるエリアを公園及び沖縄ならではの集落形成作法を取り入れた住宅地等により再生
- ・歴史環境軸である並松街道を再生し、にぎわいある沿道土地利用を配置するほか、公園等によりイベント等に活用される馬場広場を再生



■水系



■文化財等



iii) 導入機能を踏まえた将来土地利用の想定

- ・那覇国港第2滑走路・西海岸道路の整備、沖縄アジア経済戦略構想、国際医療拠点構想等による新たな視点⇒国内外、特にアジアとの経済的な交流強化を念頭に必要な導入機能を想定
- ・上記に加え「中間取りまとめ」による、振興拠点ゾーン、都市拠点ゾーン、居住ゾーンの配置及び区分を踏襲するほか、当地区の開発理念（万国津梁、シマの基層）を踏まえ、下記のゾーンを設定

万国津梁

1) 振興拠点ゾーン

①研究開発ゾーン

- ・「21世紀ビジョン」、「広域構想」、「沖縄県アジア経済戦略構想」、西普天間住宅地区跡地における「国際医療拠点」構想等を踏まえ、主に琉球大学医学部との連携による製薬・医療機器等のライフサイエンス分野を中心に、国際交流や沖縄振興に資する産業分野に係る官民の研究所を配置
- ・西海岸のオーシャンビューのロケーションを活かした研修所のほか、地震や津波リスクを踏まえた防災安全性や国内外との大容量通信網等を活用し、データセンター等のバックオフィスを想定

②国際交流ゾーン

- ・大規模公園近接部においては、こうした都市機能を支援し、国際交流等を促進する国際会議場を配置するほか、西海岸地域における将来のリゾートシフトによる移設も視野に、来街者の呼び込みや交流を促進するためのスポーツや集客イベント等に活用する多目的ドーム・アリーナを配置
- ・西海岸のオーシャンビューのロケーションを活かし、ビジネスユースにも対応するホテルを配置

(仮)普天間公園

2) 都市拠点ゾーン

①エントランスゾーン

- ・地区南西端には地区のエントランス部にふさわしい特徴的なゲート及び建物を配置

②市民文化・交流ゾーン

- ・市役所近接部には市民のニーズに対応した市民文化会館（イベントホール）を配置

③ビジネス・研究開発支援ゾーン

- ・振興拠点ゾーンの研究機能と居住ゾーンの高等学術機能を連携する産官学連携施設やインキュベーター施設を配置
- ・研究機能を支える業務オフィス、レンタルラボ、ビジネスユースのホテル等を配置

シマの基層

3) 居住ゾーン

①歴史的景観再生ゾーン

- ・並松街道沿道には沿道景観を形成し、賑わいを創出する低層の店舗付き住宅等を配置
- ・宜野湾、佐真下等の集落地権者の受け皿となる戸建住宅地（伝統的集落形成作法等の導入含む）を公園等により保全する文化財エリアを中心に配置

②地域コミュニティ再生ゾーン

- ・上記の周辺部に地権者等の需要や意向に対応したコミュニティ創出型の戸建住宅地を配置
- ・都市拠点ゾーンとのフリンジ部や幹線道路沿道に中層の集合住宅ゾーンを配置

③高等教育ゾーン

- ・振興拠点ゾーンでの研究機能を補完し、「市総合計画」等で想定される高等教育施設等の集積を具現化するため、国内外の大学、大学院等の高等教育・学術研究機関を誘致するほか、地域のニーズに対応する高等学校、中学校等の教育施設を配置

iv) TOD を具現化する交通インフラの整備

- ・ 鉄軌道、中部縦貫道路、宜野湾横断道路等、広域交通インフラの導入空間を確保
- ・ 地区周辺の交通利便性を高める、国道 58 号と国道 330 号を結節するラダー方向の行き止まり幹線道路との接続
- ・ 西海岸リゾートエリアとの連携を促進するため新たな公共交通システム（LRT 等）を導入

③イメージVRの作成について

■振興拠点ゾーン



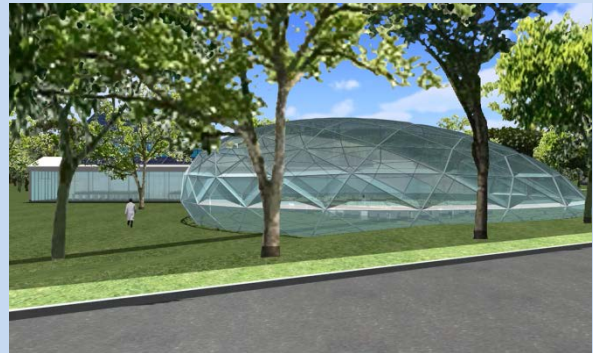
研究施設イメージ



研究施設俯瞰イメージ



モニュメントイメージ



研究施設イメージ

■都市拠点ゾーン



文化ホールイメージ



文化ホールイメージ



LRT 導入イメージ



ホテルからの西海岸眺望イメージ

■居住ゾーン



戸建て住宅イメージ



戸建て住宅イメージ



馬場の復元イメージ



メヌカー(ウプガー)復元イメージ



地下の水の道に沿った緑道イメージ

図IV-2 VRを活用した普天間飛行場跡地利用における南側エリアの将来イメージ(案)

(2) PVの制作

1) 平成28年度のプロモーションビデオ(PV)制作の取組について

本年度は、沖縄の地理的な優位性や国際交流・経済振興などを表現することや沖縄の将来を担う若者に夢を与えるようなイメージを作成することに留意し、第1回有識者検討会議における意見のほか、有識者や関係課等から意見聴取する場を設け、PV制作に取り組んだ。

平成28年度の計画内容の具体化に向けた取組み
(情報発信に関連するもの)

PV作成にあたっての留意点

- ・沖縄の地理的な優位性や国際交流・経済振興などを表現。
- ・沖縄の将来を担う若者に夢を与えるようなイメージを作成。

第1回有識者検討会議での主な意見

- ① 国際的なアピールをしていかなければいけないので、世界に発信するものを意識してほしい。
- ② 緑地の持つ意味や地下水涵養のあり方、自然エネルギーの活用などを取り入れてほしい。
- ③ 並松街道と住宅地、西側の緑、新たに導入される産業が公園や幹線道路とどう関係するか。
- ④ 若者向けの情報発信の仕方(SNSの利用等)も考えてもらいたい。

普天間飛行場跡地利用計画のPV制作プロジェクト

沖縄振興がテーマとなる南側エリアのイメージPVの制作に向け、沖縄の未来を見据え、沖縄振興へ向けた有効な意見を集約して制作するため、有識者や関係課から意見を聴きながら進める。

有識者

- ・大規模公園等コンセプトの反映
- ・普遍的な資源を活用したまちづくりの反映
- ・沖縄の産業振興の反映

関係課

- ・企画調整課(21世紀ビジョン)
- ・アジア経済戦略課(アジア経済戦略構想)
- ・交流推進課(世界のウチナーンチュ大会)
- ・ものづくり振興課(国際医療拠点)
- ・交通政策課(那覇空港第2滑走路)
- ・道路街路課(広域幹線道路)

地権者・市民等

- ・宜野湾市懇話会

平成26年度

〈中央エリアイメージ〉

【配慮事項】

- ・自然環境(沖縄の風土)
- ・歴史・文化(沖縄らしさ)
- ・国際交流・産業振興(沖縄振興の舞台)
- ・自然エネルギーの活用(環境配慮型都市)

平成27年度

〈北側エリアイメージ〉

【配慮事項】

- ・北側エリアに多く残されている歴史・文化資源の保全・活用
- ・隣接する西普天間住宅地区や周辺市街地の開発と連携

平成28年度

〈南側エリアイメージ〉

【配慮事項】

- ・那覇空港や西海岸地域とのアクセス条件を活かした土地利用計画
- ・アジアのダイナミズムを取込む経済振興や国際協力・貢献機能の導入による振興・交流拠点形成

平成29年度

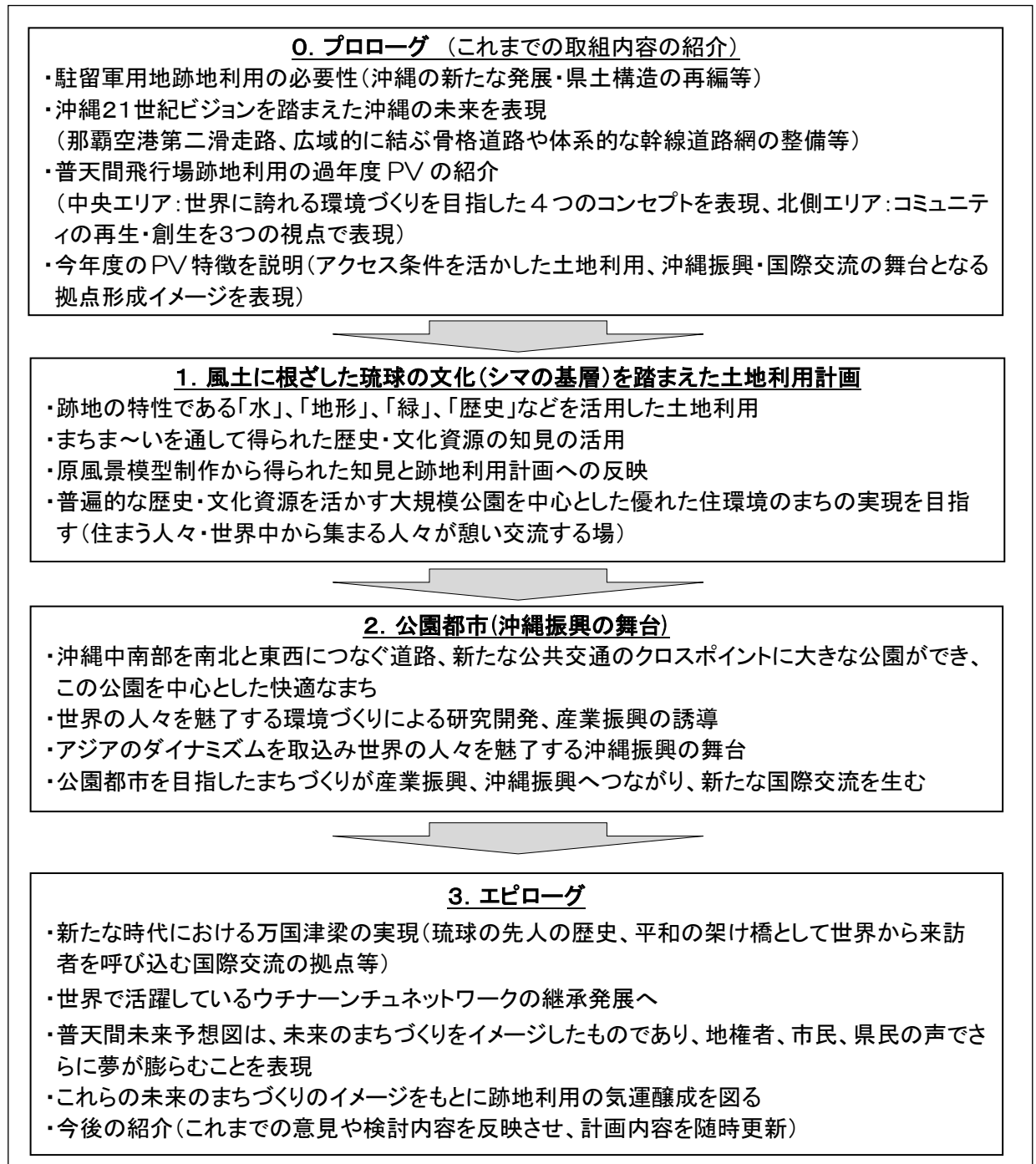
〈全体エリアの更新〉

【配慮事項】

- ・各エリアを総括し、世界に誇れる環境づくりと交流、共生、平和に繋がる跡地利用の全体イメージ

2) PVの流れ

県民・市民・地権者の合意形成・意向醸成や県外・海外への情報発信にも活用すること、また、沖縄の将来を担う若者に夢を与えられることをふまえ、PVの流れを検討した。



3) PVの今後の活用

制作したPVにより、未来のまちのイメージを地権者・市民・県民に伝えることで跡地利用の気運醸成を図り、地権者、市民、県民から意見を集約し、今後の跡地利用計画策定に向けた取組みに活用する。

(3) PV制作プロジェクト（有識者等ヒアリング）の実施

沖縄振興がテーマとなる南側エリアのイメージPVの制作に向け、沖縄の未来を見据え、沖縄振興へ向けた有効な意見を集約して制作するため、有識者等から意見聴取を実施し、様々な知見をふまえ制作した。

1) PV制作プロジェクトの実施概要

■意見聴取先

（PV制作全体会議有識者）

- ・池田 孝之 琉球大学名誉教授
- ・上江洲 純子 沖縄国際大学法学部准教授

（PV有識者ヒアリング）

- ・中本 清 沖縄県建築設計サポートセンター理事長
- ・小野 尋子 琉球大学工学部准教授
- ・嘉手苺 孝夫 沖縄観光コンベンションビューロー専務理事
- ・安里 進 沖縄県芸術大学附属研究所客員研究員

（地元懇話会）


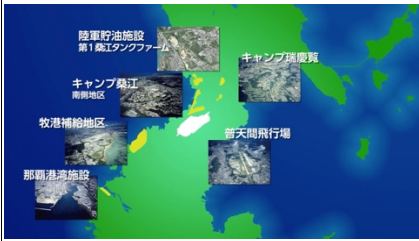


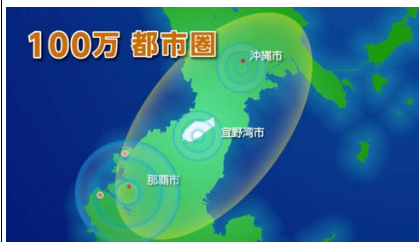
- ・地主会
- ・若手の会
- ・ねたてのまちベースミーティング

■実施スケジュール

- ・第1回PV制作全体会議 : 平成29年2月1日、3日
- ・第2回PV制作全体会議 : 平成29年2月20日
- ・第3回PV制作全体会議 : 平成29年3月15日
- ・PV有識者ヒアリング : 平成29年3月14日、17日、23日、30日
- ・第4回懇話会の場を借りて意見聴取 : 平成29年3月8日

(4) 今年度制作のPV構成・演出のポイント

表IV-1 今年度のPV構成・演出のポイント

章	cut	TIME	映像	ナレーション	シナリオ
0. プロローグ (これまでの取組内容の紹介)					
	01			はいたいぐすーよちゅーうがなびら 普天間飛行場跡地がまちになること。 それは、沖縄が発展する大きなチャンスです。	・駐留軍用地跡地利用の必要性 (沖縄の新たな発展)
	02			普天間飛行場跡地は、今後、返還が予定されている 中南部の基地の中央に位置しています。	・駐留軍用地跡地利用の必要性 (県土構造の再編等)
	03			沖縄の玄関口である那覇空港や那覇港から 内陸部をとおり北部へつながる軸。	・沖縄21世紀ビジョンを踏まえた沖縄の未来を表現 (広域的に結ぶ骨格道路や体系的な幹線道路網の整備等)
	04			共にコンベンションやレクリエーション施設を活用した、リゾートを目指す「西海岸」と「東海岸」をつなぐ軸。	
	05			このクロスポイントとなる普天間飛行場跡地が、まちになると、これまで分断されていた中南部の100万都市圏がひとつにまとまります。	

<p>06</p>			<p>2015年1月に沖縄県が発表した予想によると、 周辺の跡地利用とも連動して、大きな経済効果を生み出します。</p>	<p>※駐留軍用地跡地利用に伴う経済波及効果等に関する検討調査(平成27年1月)</p>
<p>07</p>	<p>1分 13秒 / 1分 13秒</p>		<p>ここに、世界につながる国際交流と産業振興の拠点を置くことで、アジアの交易の中心になるのです。</p>	
<p>08</p>			<p>この地には、かつて集落がありました。 緑の森があり、家々が軒を連ね、人々の普通の暮らしがありました。</p>	
<p>09</p>			<p>米軍の基地になり、集落や暮らしは消えてしまいました。</p>	
<p>10</p>			<p>戦後、基地の周りに移り住むことを余儀なくされ、いびつな都市になっていきます。</p>	
<p>11</p>	<p>47秒 / 2分 00秒</p>		<p>一方、基地の中には、時が止まったように、戦前の姿のままの森や、かつての暮らしの痕跡がまだ残されていたのです。</p>	

12			<p>この、基地に残る昔の暮らしを活かしながら、新しいまちをつくったらどんな風景になるでしょう。</p> <p>これまで、エリア毎に新しいまちをイメージしてきました。</p>	
13			<p>中央エリアでは水と緑のつながり、沖縄らしい気候風土と調和するまちを</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・普天間飛行場跡地利用の過年度PVの紹介 ・中央エリア:世界に誇れる環境づくりを目指した4つのコンセプトを表現
14			<p>北側エリアでは歴史や文化、先人の知恵から学び、周辺の跡地利用と連携して、さまざまなコミュニティを創り出すまちをイメージしました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北側エリア:コミュニティの再生・創生を3つの視点で表現
15			<p>今回は、主要な道路が交差するアクセス条件の良い南側エリアを中心に、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のPV特徴を説明(アクセス条件を活かした土地利用、沖縄振興・国際交流の舞台となる拠点形成イメージを表現)
16	<p>55秒 / 2分 55秒</p>		<p>沖縄振興の舞台となる新しいまちをイメージしてみます。</p>	

1. 風土に根ざした琉球の文化(シマの基層)を踏まえた土地利用計画

17			<p>まちづくりで大切にしたいのは、いにしえから、ここに住む人々の生活に深く関わっていた「地下の水脈」、「土地の形」、「森の緑」、「歴史や文化」です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・跡地の特性である「水」、「地形」、「緑」、「歴史」などを活用した土地利用
----	--	---	---	---

18			<p>かつての集落の様子を、古い写真などを参考にしながら、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原風景模型制作から得られた知見と跡地利用計画への反映
19			<p>模型で再現してみました。</p>	
20			<p>また、地元の方々と基地周辺を巡り、戦前、ここで、どのような生活をしてきたかを探りました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まぢま〜いを通して得られた歴史・文化資源の知見の活用
21	42秒 / 3分37秒		<p>これらの取り組みを、新しいまちの緑地や広場、住宅などの参考にしながらイメージしてみましょう。</p>	
22			<p>普天間飛行場の地下には、</p>	<p>シマの基層 ・「水」を活用した土地利用</p>
23			<p>宜野湾に降る^{あまみず}雨水が、琉球石灰岩層でろ過され、大山などから湧き出て西海岸へと流れる、</p>	
24			<p>水の道があります。</p>	